

シンもんじゅ って、あなた。。。。

2016年9月18日

産経新聞の主張(他紙でいう社説)にもんじゅの話題が出ていました。

高速増殖炉「シンもんじゅ」を目指せ 核燃サイクルは国の生命線だ

廃炉を視野に入れた検討が進むのは当然だ。
遅きに失したといえる。
ただし廃炉の議論では、もんじゅに代わる
新たな高速増殖炉のビジョンが欠かせない。
**核燃料サイクルの前進につながるもんじゅの幕引きを、
政府全体で検討すべきである。**

産経新聞として、何を期待しているか？と言うと

今はウラン価格が安定し、油価も下がっているが、
この状態が将来も続くとするのは早計だ。
核燃料サイクルによるウランの長期利用の実現が
賢明な策である。

(中略)

高速増殖炉の真価を発揮する新たな
「シンもんじゅ」の開発を期待したい。

(中略)

フランスが2030年ごろの稼働を目指す高速炉
ASTRIDの共同開発も選択肢の一つであろう。

ASTRID (フランスの技術実証炉：MOX燃料)

(参考資料①)

<目的>

- 第4世代炉の技術実証
- 照射実験、技術実証のツール
(放射性廃棄物の量と毒性の低減)

<今後の計画>

2013年～2015年 概念設計
2016年～2019年 基本設計
2019年末 建設に向けた判断
2025年頃 運転開始

2013年6月7日 日仏共同声明(参考資料②)

「両国は燃料サイクル及び高速炉を含む第4世代炉の準備におけるパートナーシップを
引き続き深めていく。」

今後の高速炉開発の進め方について(案)

(一部抜粋)

- 我が国は、「エネルギー基本計画」に基づき、**核燃料サイクルを推進するとともに、高速炉の研究開発に取り組むとの方針を堅持する。**
- 国内の高速炉開発の司令塔機能を担うものとして、新たに**「高速炉開発会議(仮称)」**を設置する。
- 「もんじゅ」については、**廃炉を含め抜本的な見直しを行う**

「高速炉開発会議」については同日の資料に説明がありました

資料1 「高速炉開発について」 p.5 (参考資料③)

「高速炉開発会議(仮称)」の設置について

【ミッション】

国内の高速炉開発の総合司令塔機能
(今後の高速炉開発の方針案を策定)

【開発方針の主な内容(イメージ)】

- 高速炉開発の政策的意義の再確認
- 今後の高速炉開発の進め方
～実証炉開発目標を明確化し、具体的な道筋も示す
～もんじゅの知見回収、常陽の活用、ASTRID協力の強化、その他国際協力等
- 人材の活用・育成についての十分な対策

最後に一言

産経新聞の主張を見たときは何かの冗談かと思いましたが、その後政府が出してきた「高速炉開発の進め方」を見ると、ほぼ産経新聞の主張のまんまで、「シンもんじゅ」とか言いそうな勢いだったので、再びびっくり。このポスター作成時点(9月22日)では関係閣僚会議の議事概要が公開されてませんので、この「(案)」がそのまま通ったことは確認できていませんが、報道などを見る限り、ほぼこの案のまま通ったであろうことが想像できます。これ、我々が注目すべきは「もんじゅ廃炉」ではなく『核燃料サイクルを推進するとともに、高速炉の研究開発に取り組むとの方針を堅持』の部分です。下手したら動かないもんじゅで責められ続ける現在よりも、ずっと話が進んでしまうという、最悪の仕切り直しになりかねません。『今後の』方針なんか決める前に、まずは「もんじゅ」がなぜこんなことになったのか？責任の所在をはっきりさせる必要があります。さらに原点となっている核燃料サイクル政策自体のこれまでの進め方を見直すことこそ、今すべきことのはずです。